

『コラボノート』は、もともと学校向けに開発されたもの（イントラパケツスクールバック）を改修したソフトで、

学校用教育ソフトがベース 模造紙学習をヒントに企業向けに改良

【ユーザー事例】部品メーカーA社の場合

部品メーカーであるA社は、「QC（品質管理）活動」を徹底するため、『コラボノート』を活用している。以前から、事業所を中心に日常業務で気づいた改善提案を各部署から収集して効率化と安全に役立てる、「QC活動」を行なってきたが、全社共有には難しい面があった。『コラボノート』の導入でリアルタイムに提案が集まるようになった。部署に関係なくアドバイスができ、過去の事例も簡単に検索できるため、改善情報の共有につながる効果を発揮している。



『コラボノート』は、稟議書や休暇申請書、経費明細書など、社内の形式文書を取り込み電子化する機能も備えている。迅速な決裁が可能になるだけでなく、紙へ出力しないことでコスト削減効果もあることも見逃せない。

『コラボノート』は、稟議書や休暇申請書、経費明細書など、社内の形式文書を取り込み電子化する機能も備えている。迅速な決裁が可能になるだけでなく、紙へ出力しないことでコスト削減効果もあることも見逃せない。

トップに聞く 社内コミュニケーションの最新形

社員のアイデアを引き出す『コラボノート』とは

情報共有、組織のフラット化などを実現するために、これまで様々なグループウェアが開発され、企業に導入されてきた。しかし、上手く機能せず、組織全体に浸透させるのに苦労している企業経営者は多いのではないだろうか。本支店や事業所など複数の拠点を持つ企業にとっては、スタッフ間の情報伝達の速さと正確さも課題である。今回は、文書作成ソフトと同じ感覚で誰でも使える『コラボノート』を紹介する。



株式会社ジェイアール四国
コミュニケーションウェア
代表取締役 社長
新田 久穂氏

1つの文書に情報を集中 社員同士が自然に情報共有

『コラボノート』は、パソコンの画面を模造紙に見立て、複数の場所から自由に書き込みや閲覧ができるソフトウェア。ウェブ上で展開するサービスで、ソフトをインストールする必要はない。最大の特長は、1つの文書にアイデアや意見を集約できること。「これまでは、同じプロジェクトでも複数のファイルにまたがり、情報共有が進みませんでした。新聞のように一覧性を備えているため、素早く進捗状況や問題点を把握できます」と、提供するジェイアール四国コミュニケーションウェアの新田久穂社長はそのメリットを説明する。

『コラボノート』なら、組織全体への普及もスムーズに運ぶであろう。

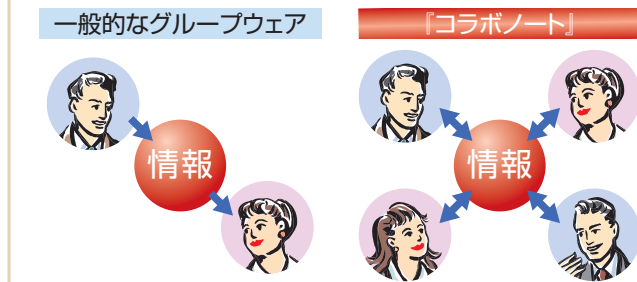
『コラボノート』は、ビジネスの場面で具体的にどのような応用され、活用されているのか。ここでは、①週間予定表、②プロジェクト管理、③営業報告、④社員教育——と4つの代表例を紹介する。

①は、個人やグループの予定表を簡単に作成できるので、仕事の割り振りや調整をしやすくなる。②は、メンバー間の連絡、資料の収集と作成、討論内容などが効率よく管理できる。③は、担当営業が抱える案件の状況把握やアドバイスに役立ち、引継ぎもスムーズにいく。④は、職場研修や通信教育などに使用する教材管理やレポート提出などに活用できる。

新田氏は、「目的に合わせて自由な使い方ができます。企業や部署によって、様々な活用していただいているようで、お話をうかがうと私たちの方が驚かされることもしばしば」と言う。

『コラボノート』ならではの特色

情報を双方向でやり取り可能



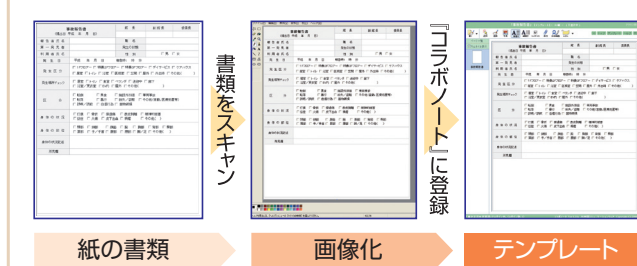
一般的なグループウェアは、情報が一方通行になりがちで、相手が見ていないことも多かった。『コラボノート』は、テキストや画像を問わず、あらゆる情報を双方向でやり取りが可能になる。

ひと目でわかる進捗状況



膨大な文書があっても、更新された時間順に表示されるので、進捗状況を把握できる。インターネットに接続できる環境（注）にあれば、出張先や全国の支店など、どこからでもアクセスできるため、情報を見落とすリスクを減らせる。

これまでの書式をそのまま活用



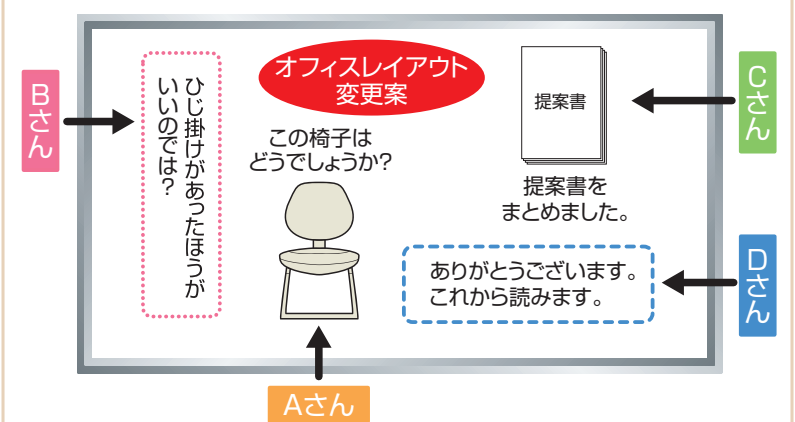
稟議書や営業報告書など社内には多数の書式がある。スキャナーで取り込み『コラボノート』に登録すれば、書式を変えずに使用できる。決裁の迅速化と紙出力ゼロによるコスト削減という2つの効果がある。

社内全体の情報をリアルタイムで把握 出張先からでもアクセス可能

経営者や管理職にとって『コラボノート』導入のメリットは、社内全体の動きがリアルタイムで把握できることに尽きる。組織が大きくなるほど、全体を見渡すことは難しくなるが、『コラボノート』を使えば、常に新しい情報がポータル画面に表示されるので、見落とすリスクが減らせる。また、インターネットが使えない環境なら出張先からでもチェックでき、的確な指示がいつでもどこでも可能だ。

『コラボノート』は、当社でも基幹システムとして活用しています。先日、1週間ほど会社を休んでいたとき、自宅

『コラボノート』の活用イメージ 例）オフィスレイアウトについて社員同士で討論



パソコンの画面を模造紙に見立てた『コラボノート』は、きわめてシンプルな作り。イラスト、コメント、文書ファイルなど自由に書き込めて、レイアウトの制約は受けない。1つの文書でやり取りするため情報が分散せず、途中から参加した社員でもすぐに書き込めるメリットがある。誰がいつ書き込んだのか、履歴も表示される。

（注）ASPサービスまたはVPNなど、『コラボノート』に接続できる環境が必要です。

株式会社ジェイアール四国コミュニケーションウェア

e-mail cn@jrscmware.com 電話 087-821-4520（担当：営業部 藤沢） URL <http://www.jrscmware.com>

詳しくは

[コラボノート](#) [検索](#)